

中国原産の植物で、平安時代に渡来していたといわれています。ボケと同じなかまで、10～11月にナシのような大きな実をつけ、黄色に熟します。熟した実は、芳香はあるものの木質でかたく、渋みもあるので生では食べられませんが、果実酒やジャムなどに加工して利用されます。また、実を陰干しにしたものは、咳止め薬やのど飴などに利用されています。

高さ5～16mになる落葉高木で、4～5月に咲く花は淡紅色の大柄でとても美しい花です。庭木としてよく植えられ、ふるさと森林公園では結婚記念樹として植えられています。また、盆栽としても利用され、矮性化させみごとな盆栽に仕立てられている作品を目にすることもあります。耐寒性が強く、冷涼な気候と水はけの良い肥沃な土壌を好むとされています。

成木になると樹皮が鱗片状にはがれ、独特の肌模様となるので、この樹皮の特徴を覚えておけば、葉を落とした冬期でもカリンであることが分かります。



▲カリンの実



▲カリンの樹皮